

名古屋市立大学大学院医学研究科不育症研究センター
共同研究の募集について
「着床前スクリーニングを希望する習慣流産（反復含む）患者を
対象とした意識調査」

名古屋市立大学不育症研究センターでは共同研究の募集を行っております。

不育症研究センターは、「不育症・ヒト生殖メカニズム解明のための共同研究拠点」として平成27年4月に文部科学省より共同利用・共同研究拠点として認定されました。

着床前診断（Preimplantation Genetic Diagnosis；以下 PGD）とは体外受精を前提として受精卵の一部を採取して診断し、罹患していないと診断された受精卵を胚移植することで、遺伝性疾患や夫婦どちらかの染色体均衡型転座に起因する習慣流産の患者さんの疾患もしくは流産を予防する技術です。日本産科婦人科学会は生命を選別する技術であるという倫理的批判をかんがみて「着床前診断に関する見解」に基づき重篤な遺伝性疾患に限り臨床研究として実施を承認してきました。

昨今の妊娠の高齢化によって卵子の染色体数的異常に由来する不妊症、流産が増加していることが懸念されています。夫婦が正常でも起こる胎児染色体数的異常に起因する習慣流産において受精卵を網羅的にスクリーニングする着床前スクリーニング（Preimplantation Genetic Screening；以下 PGS）の関心が高まっています。学会は PGS を禁止してきましたが、社会のニーズをかんがみて「PGS が出産成功率を改善できるか」を調べるために臨床研究を学会が主導して実施することを決定しました。

研究対象：着床前スクリーニングを希望する患者 100 人

2 回以上の臨床流産

体外受精を実施している

過去の流産において胎児染色体数的異常が確認されている

35 歳から 42 歳

この貴重な機会に着床前診断を受ける患者さんの心理社会因子について研究を行う予定です。人文社会学系の共同研究課題を募集します。

現時点の調査項目は、患者さんの社会的背景（年齢、収入、既往流産回数、不妊期間、不妊原因など）、抑うつスコア、希望する理由などです。

1. 申請対象者

大学ならびに公的研究機関に所属する研究者。

2. 申請方法

共同利用・共同研究申請書に必要事項を記入してお送りください。

区分は、「着床前スクリーニングを希望する習慣流産（反復含む）患者を対象とした意識調査」とご記載ください。

3. 申請書提出先

名古屋市立大学大学院医学研究科不育症研究センター

〒467-8601

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 番地

E-mail igakuburpl@sec.nagoya-cu.ac.jp